

労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2019年11月21日発行

No. 564号 (第51期 9号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

第 51 期氷雪技術講習会が始まりました！

～講座①「冬の装備と生活技術」の受講模様～



第 51 期氷雪技術講習会の講座が 10/28(月)19:30 より県連事務所で始まりました。

講座①の前半の講師はありんこの榊原さん。前段に、冬山の厳しい自然条件について学び、服装・装備の重要性を実際のウェア・装備を見ながら役割や使い方等を学びました。(次項に続く)

《目次》	第 51 期氷雪技術講習会が始まりました！	1
	第 51 期 各会代表者会議 記録	2
	山筋ゴーゴー体操講習会のお知らせ	7
	第 51 期 登山学校 研修山行 報告	7
遭対部	11/8、第 51 期第 4 回遭対担当者会議を開きました	8
〃	12/13、冬山合宿遭対連絡会議を開きます。	9
組織部	各会の会員拡大取組み 半田ファミリー山の会	9
女性部	女性部だより	10
お知らせ	ふわく山の会 講演会の紹介	11
〃	70 グラム vs 560 グラム -登山時報を読みましょう！	11
	カレンダー	12

(前項からのつづき)

後半の講師は、駅前アルプスの千葉社長。駅前アルプスで販売している最新モデルの装備の実物で製品の特長的な点や過去の製品からの改善点等をお話していただきました。ウェア・装備とも、値札もつけたまま回覧していただき、今後、装備等を揃える際の参考になりました。

受講生は、10 山岳会 24 名(くらら7名、犬山マップ 3 名、半田 F2 名、じねんじょ 1 名、かわせみ 2 名、みどり 3 名、春日井峠 2 名、あつた 1 名、ありんこ 2 名、ASC1 名)でした。また、今期に新設した日帰りの実技山行に 8 名の申込みがありました。

第 51 期 各会代表者会議 記録 2019 年 9 月 29 日

書記：理事、岩田・森本

9：30

佐藤理事長 県連の半期の現状を報告、諸問題についての各会の意見と議論を要請し、概要次のように報告①会員数が 940 名、減少に歯止めがかかっていない。②今期の事故件数は、15 件(8 月末)。前年度より 5 件増えている。③前半期の取り組み総括と後期に向けての県連活動の諸問題の意見交換の場としたい。

司会(廣田) 進め方について説明、まず財政問題からお願いします。

9：45

脇田(財政担当理事) 討議資料に基づいて財政の現状の説明、県連財政打開策の提案、今後の見通し等を報告。

吉川(事務局) 討議資料の事務所を移転した場合の会議・講習会場の費用等を補足説明。

白水(かわせみ) 何人なら黒字か(損益分岐点)? 財政問題と会員拡大は一体ではないか。

飯田(おやこ) 登山学校の経費は出るのか?

脇田 れは予算組みの問題ではないか

飯田 県連としての独自事業などもやってからの(値上げの)議論ではないか

洞井(半田 F) 今、現状維持か、どんどん減っていくとしか見えていない。何年持ちこたえるか? 100 万円をくずせば、3 年もつ、その間に会員拡大すればいい。

三島(じねんじょ) 会員拡大の方策の提示がないままの財政提案では意味がない。連盟費値上げには根拠が必要である。

吉川 現状の財政状況を鑑みての話です。

水越(同志会) 東海山岳会の家賃が入ってないがどうしてか?

脇田 単純に抜けていました。

村田(スルジェ) 全国連盟費の値引きを要請できないか?

二宮(みどり) 県連としての魅力がないと組織拡大はむづかしい。

弘中(春日井) 今は財政状況の確認の時間ではないか?

岡(犬山マップ) 行動保障費がなくなっているが?

脇田 2017 年度分で打ち切りになっている。

岡 電話料金、登山時報で約 10 万円節約できる。

北川(くらら) 連盟費の値上げの場合、総会の時期に会と県連のタイムラグが出る。退会者が出るだろう。

小嶋(春日井) 財政は切羽詰まっているのでなんとかしないとイケない。

松本(東三河) 個人として値上げは理解できるが、会としては反対があると思う。登山など野外スポーツも多様化しているし、野球、ゴルフも人口が減少している。お金が無いのならばしょうがない。事務所移転も含めて検討してほしい。

- 神谷（若駒） 今日、代理の代理で出席しました。色々勉強させていただく。
- 岡 基本的に反対ですが、それを持ち帰って確認します。会として値上げに抵抗感はある。当会は、会員は増えている、拡大できる。
- 水越 会としては値上げ反対。労山愛知をメール配信として45万円紙代などの経費の削減の余地はまだあるのでしてもらいたい。
- 三輪田（山歩会） 会としては値上げ反対であり、値上げされれば会員数は減少。会では事務所をなくして労働会館に例会を移し収支はプラスになった。経費を削って対処して欲しい。
- 大石（アリス） 今の事務所を維持すべくやって欲しい。現在は使い勝手が良く、値段は高いがこの事務所で108,000円は安い。
- 白水 山に行くと登山者は多い。その中で会員拡大は方法次第でできるのではないかな？
- 三島 人口が減っている。どれだけ山岳会へ吸収するか、会員拡大はやり方次第。納得する形で。
- 洞井 全国連盟の話も出た。何のために集まっているのか？連盟費300円の内訳は、全国連盟130円＋県連170円だ。足元、山しかみていないではダメ、財政が減ってゆくこと＝会員減。（これまでの事務所の変遷をいろいろ語る）
これ以上の事務所は絶対に見つからない。家主が空調を100万円かけて直してくれた。必要であれば値上げは理解されるでしょう。現事務所は、社会的ステータス、信頼性、利便性からも維持すべき。
- 森田（あつた） 値上げは難しい。50周年事業＝財政ひっ迫の折、なしもありか？経費削減をもう少しやるべきだ。
- 神保（ASC） 今の事務所は維持したほうがいい。値上げは許容範囲。
- 加藤（ちんぐるま） 値上げじゃなく、カンパという考えはないか？100円として年二回くらいの訴えも必要ではないか。「労山愛知」の年始に広告を載せて収入を得る。知恵を出し合ってやって欲しい。
- 谷岡（ありんこ） 会としては解らないが、個人的には、理由づけがあれば値上げもやむなしと考える。
- 井川（ふわく） ふわくでは値上げしたら労山をやめる人が多いので、値上げしたくない。ふわくは年齢の高い会となっている。労山立ち上げからの会員が多くそうした会員は年を取ったから山に行けない。県連盟の良い所を伝えていく。
- 飯田 荒子になったら交通費が嵩まないか？
- 吉川 荒子の件は、名駅から所要時間7分、200円、1時間に4本。理事会を開くには狭いので、外で開くことになる。
- 洞井 確認しておきたい。会費値上げは40年間で3回やった。値上げには周知の準備が必要。2～3年はかかる。スケジュールをどうするか？
- 佐藤理事長 理事会で検討する。
- 脇田 私見では、何らかの一致が必要。最速でも次期総会で提案して、議論、次の総会で決定する。本来の打開策（組織拡大）をして安定財源を作る。当面の打開策は切り抜け策である。
- 洞井 このままでいけば年が越せない。逼迫したのは会員が減っていること、お金をどうするかの本立が必要。事務所は選択肢の一つ。
- 脇田 明日、首吊るしかないのか？という事でもないが、支出を相当工夫すれば何とかなる。
- 洞井 今、必要なことをやる。
- 脇田 支出の見直しをすべきでしょう。

井川 県連、1000 人が損益分岐点。
司会 13：00 まで昼食休憩、午後は 13：00 からお願いします。

13：00

司会（中根） 組織拡大についてお願いします。

吉川（組織部長） 組織部について報告（資料から）。

白水 ホームページの充実を含めてどうやって拡大してゆくのか？HP を見る人がいないとダメ。山岳会に入りたいと思う人が見る。

吉川 各会の魅力をしっかり伝えられるような内容にしていきたい。

弘中 ホームページをメンテナンスすれば、それなりの反応がある。県連のHP も古いままなので更新して欲しい。労山に入ると登山学校で学べるとか、魅力ある県連にして県連で何か新しい活動を立ち上げて欲しい。

吉川 山岳会の維持のためにも、山行し会員拡大する事だ。

洞井 会員拡大は夢がある。組織があることで、一人でできないことを何人も 集まって実現することができる。登山学校は県連の看板である。だから組織を守らないといけない。SNS 登山に数万人もの人が集まり、全国ではその塊が数個あると聞いているが、なぜそれらの人たちを組織できないのかを考えていけないといけない。

弘中 SNS 登山に対応したことを全国連盟でやっているのか？

吉川 数年前、個人会員制が導入されたが、セキュリティの問題その他うまくいかず閉鎖した。

望月（ふわく） 全国連盟ではネット登山はやっていません。以前行われていた個人会員制の閉鎖の事後処理の全国連盟検証委員会に携わっている。

洞井 理念の問題がある。

白水 SNS 登山に不安をもっている人たちをすくいあげることができればと思う。かわせみでは掲示板に情報をのせている。SNS 登山を対局とは思っていない。

三島 私が一人で登っているとき、山岳会に入ると安全とか技術などの不安が解消するのかなと思った。たまたまそういう人との接点があったので山岳会に入った。だから一般の人との接点を多く持つといい。

北川 楽しい会を目指し、会員数を維持している。連絡があった人を逃がさないようなステップを用意している。

岡 会としてはホームページは課題となっている。公開登山や登山講座を継続して、毎年 10 人くらい入会している。犬山市の広報に募集記事をのせてもらっている。鳩吹山で会員勧誘のチラシを配っている。

洞井 県連の一般登山講座は 8～9 年目、しかし会員拡大の唯一の源ではない。半田 F では 20 数年にわたって登山講座を続けていて入会者が 85 人以上いる。各会でやることには意義がある。量と質が必要。

佐藤 今後の理事会で、具体化をはかりたい。

14：30

司会 自然保護活動について報告をお願いします

田中（自然保護部長） 自然保護部活動の一般報告

弘中 ハルザキヤマガラシ駆除を積極的に推進して欲しい。県連の成果となるような活動にして欲しい。

田中 清掃登山とハルザキヤマガラシ駆除は区別して取り組むべきだ。

洞井 ハルザキヤマガラシは解決・撲滅もできない。どこからどう流れてきたか判

らないが県連が初めて応じた。清掃登山と分けて考えるべき。清掃登山は愛知県連が一貫してやってきた。過去、菰野町長が山頂まで来て挨拶したこともある。三重県連とも共同で開催してきた。山からゴミをゼロにしたのは、自治体、ロープウエイの会社がやったのではない。1980年100人から増えていって、ピーク時には1300人。町内会のゴミゼロ運動とは違う。自治体が冷たいというが、お願いするのではない。「やりますよ」と通告しているだけ。集めたごみを自治体が処理してもらえば、ありがたい。30周年には、感謝状をもらっている。今まで長い歴史と趣旨があって継続してきたのを簡単にやめるべきではない。

15:10

榊原（教育部長） 教育部報告を行った。

三島 氷雪技術講習への一般参加は反対。教育部は会員への教育を充実すべきなので、登山学校に対する一般登山講座があるように、棲み分けすべきと思う。水越 一般参加は会員拡大のためやってみる価値がある。一般へのアピールになる。洞井 登山学校は、各会からの要請でできてきた。一般参加を認めるのは教育部会、理事会の独断で決めることではない。総会決定事項ではないか？ 講師料についても説明不足。

三島 講師の保険が無いし、誰が講師をやるのか？

榊原 机上講座だけだから、今保険の事を決める必要はないでしょう。また、講師は教育担当者会議で話し合っていて決めています。

岡 この場では意見だけ述べていただいて、次回理事会できめたらどうですか？ 飯田 昨年の代表者会議に配った文書についての対応が悪い。

榊原 平和行進の時に参加者がノートに記入するよう今後気を付けてください。講師料については、昨年、従来の講師料8000円に森さんは根拠不明と言い、根拠がない講師料8000円の金額に立脚することができず、講師料はなしとし、交通費と資料代にした経緯があります。今年度はこれから理事会で決めてもらうこととしています。一般の方の受講については、全国雪崩講習会に高校生を受け入れている。県連遭対部は、救命救急法講習会に一般登山講座の受講生を受け入れている。また、女性部も「山筋ゴーゴー体操」講習会で一般の方を受け入れている。氷雪技術講習会も同様に考えて提案している。洞井 氷雪技術講習会と救命救急法講習会をごっちゃにはしてはいけない。

白水 氷雪技術講習会は、総会の議題にあったか？

榊原 総会の議題にはない。

白水 「山筋ゴーゴー体操」の予算はあるのか？

河村 ない。だから、会員800円、一般1000円の参加費にした。

村田 氷雪技術講習会に一般の人を受け入れる目的は何か？

榊原 目的は一般の方が安全に雪山に登るための一助となること。また、一助となることで山岳団体が認知されると考えています。

岡 議事進行について。この場では意見を述べていただいて、氷雪技術講習への一般参加については理事会で決めたらどうですか？

洞井 講師の保険はどうするか？

榊原 一般の方に対して実技はやらない。机上講座だけならそこまでは必要ない。

洞井 確認。講師の派遣は所属の会として認めていない。

榊原 教育担当者会議で了解をもらっています。

司会提案 ①教育部の活動は最終的に理事会で決める。②講師料などは、理事会ではまだ決まっていない。

16:00

望月

遭対部報告 討議資料の訂正部分だけ申し上げる。

事故報告 8月25日現在 事故件数15件、前期比 5件増を9月18日現在、事故件数16件に、前期比6件増に訂正する。

(1) 合宿遭対連絡・報告会議の項、下へ12行目、「同報告者は」は「同報告書は」と訂正する。

- ・資料集は ココヘリについて追加し訂正する。22ページは「労山基金@1000円×5口の場合4段目の枠に以下の文言を入れて下さい。

年額 **8,650円**

ココヘリ年会費 3,650円含む

司会

女性部から報告してください。

河村

- ・6回の活動を行っている。「女性のつどい」に参加できている山岳会が固定されている。女性部の活動の方向付けをしていく難しさを感じている。女性部として果たす役割はまだ多くあると思うので、より女性会員の視点に沿った活動体制づくりをおこなっていく。

- ・山筋ゴーゴー体操の普及を県連全体で考えていきたい。サポーターも1名県連で作れた。12月15日(日)石田先生講師で「山筋ゴーゴー体操」を行うから、ぜひ参加をしてください。

司会

その他について意見のある方。

飯田

2つある。一つは平和行進について、もう一つは12月6日のコーチ会議との懇談会についてだ。後者の資料は「労山愛知」No.557、11ページ「報告:コーチ会議との懇談会」を参照する。

榊原

意見交換会一誹謗中傷がされている。コーチ会議と理事会とで再度討論したらどうか？

吉川

平和行進については、今年度全日程について繋いでいる点は評価してほしい。

飯田

参加者ノートに、記入を徹底するようにしてほしい。

岡

打開策提案、資料集P5のA) B)は現時点での提案には相当乖離があるが、C)は次期総会に提案できるのではないか。

飯田

「労山愛知」の記事はウソだ。

洞井

理事会と登山学校コーチ会議の懇談会は、12月6日(木)19:30~22:45に開かれ、出席者は23名だった。その後、「労山愛知」に記事が載ったが、全く納得がいかなかったので3時間余の会議のテープ起こしをした。資料として既に理事会には配布済み。同時に7月30日付けで、登山学校コーチ会議一同として、「『労山愛知』No.557(2019年4月25日発行)の記事についての申し入れ」として理事会に送ったが、いまだに返事はない。資料は今日の出席者にも持って帰ってもらう(として縷々説明があったが割愛する)。

吉川

懇談会の時なぜ答弁できなかったかという、メモについての議論が会長に止められたり他の課題があったりで理事会で討議できていなかったからだ。理事会内で意見の相違が想定されるものについて、理事会の外で答弁出来ない。

佐藤

理事会は、いろいろ課題があり、まだ正面から討議してない。 以上。

「山筋ゴーゴー体操講習会」のご案内

「あなたはあと何年山に登りますか？」

筋肉は生きる力！そして筋肉は何歳になっても育つ。

登山を続けていても加齢とともに筋肉は減少します。しかし正しく鍛えることにより、筋肉は育てる事ができると科学的にも示されています。

山筋ゴーゴー体操は、自宅でコツコツ続けることで山へ登る筋肉とバランス力を付けてくれます。快適な登山、怪我予防のために、筋肉を鍛えて体力アップ、バランス力をキープしましょう。

「山筋ゴーゴー体操講習会」を12月に開催します。

体操の考案者である石田先生から直接筋肉維持に必要なトレーニングについて様々な方向からの講演及び実技の講習をしていただきます。サポーターの方も参加されますので、経験の無い方も是非ご参加ください。会員外の方も参加可能です。男女問わず沢山の方にご参加いただきたいです。

【開催日時】2019年12月15日（日）午後1時30分～午後4時00分

【開催場所】労働会館東館ホール（名古屋市熱田区沢下町9-7）

【講師】石田良恵先生・サポーター

【持ち物】動きやすい靴、ヨガマット（テントマット、バスタオル等でも可）、飲み物
山筋ゴーゴー体操冊子（当日、200円で会場でも販売いたします。）

【会費】登山会員800円／会員外1,000円

第51期 登山学校 研修山行 報告

半年間学んだ事の実践と検証を目的に、9月7.8日（土日）八ヶ岳において第51期 登山学校 研修山行を実施しました。受講生は4名、参加コーチングスタッフ8名、合計12名。

9月7日（土）は、快晴の中、舟山十字路から立場山を抜け、阿弥陀南稜を登攀、赤岳鉱泉で幕営しました。

9月8日（日）は、赤岳鉱泉より小同心を登攀後、横岳を登頂し硫黄岳を経て下山の計画でした。しかし大同心基部で台風15号の影響による強風を感じたため、撤退の判断に至り、赤岳鉱泉から美濃戸口へ下山しました。

計画から無事下山に至るまで、登山の総合力と状況判断の重要性を体感する山行となりました。

登山学校は終了しましたが、受講生の皆さんはこれからが本当の

自立した登山者の始まりです。学んだ事を活かし、今後も自らを高めて欲しいと思います。





遭対部 11/8、第51期第4回遭対担当者会議を開きました

2019年11月8日(金)19:30～、県連事務所で第4回遭対担当者会議が開かれ12山岳会14名が出席しました。

【出席者】加藤(ちんぐるま)、松本(東三河)、谷岡(ありんこ)、室岡(じねんじょ)、白水・佐藤(文)・佐伯(かわせみ)、西尾(くらら)、天池(アリス)、樋江井(若駒)、高井(春日井峠)、春日井(みどり)、洞井(半田F)、望月(ふわく)。

【議題】1、事故報告が2件ありました。

No.17 鎖場で足を滑らせ滑落右膝を傷めた

【事故発生日時】2019年10月14日(月・祝)10:50ころ【山域・山名】石鎚山脈・石鎚山

【事故者】女性、50才 【受傷の程度】右膝捻挫・膝蓋骨脱臼骨折

【事故の概要】鎖のついたところを登っていたところ、左足を滑らせ手もはなして滑落。すぐ後ろのメンバーが仰向けになって1mほど滑落してきた事故者を抱きとめたが、事故者の右足が壁と鎖の間に挟まれ、抜くのに1分ほどかかった。事故者は悲鳴を上げた。5mくらい離れた場所に小屋があったので、事故者をそこへ搬送した。即刻、警察・消防の双方へ連絡。偶々小屋に居合わせた整形外科医の方にも協力してもらい、事故者の体調確保に努めた。約1時間後にヘリ飛来し、一旦松山空港まで搬送し、その後、救急車で松山市の病院へ搬送。1日入院し翌日退院帰宅。帰宅後、整形外科クリニックを受診し、同様の診断を得、一般的に4週間のギプス固定保存療法となるとの説明を受けた。

▲反省・指摘など

- ・今後、事故が起こらないよう最善の注意を払う、3点支持をしっかりとやる。
- ・登山学校で学んだことが役立った。

No.18 岩と岩の間に乗っていた石に体重をかけたところ、石が動き太ももまで落ち怪我

【事故発生日時】2019年10月20日(日)11:35ころ【山域・山名】八ヶ岳・蓼科山

【事故者】男性、61才 【受傷の程度】右足首靭帯損傷

【事故の概要】山行2日目、リーダーが体調不良となりサブリーダーが付き添い下山。急遽リーダーを決め、リーダーは最後尾、事故者が先頭を歩いた。山頂から下山を開始するため岩場を移動中、大きな岩と岩の間に石が乗っているところに左足を乗せ体重をかけた際に、その石が動き

左足が岩と岩の間に落ちた。左足が太もも辺りまで落ちた際に残っていた右足首を捻った。事故直後少し痛みはあったが何とか歩行できた。足首を曲げると痛みがあり応急処置（テーピングと痛み止めを飲んだ）をした。2時間のコースを、4時間かけて下山した。翌日近くの整形外科を受診した。エスケープルートを降りたリーダーとサブリーダーとは駐車場で合流した。

▲反省・指摘など

- ・会として4件目の事故で反省している。
- ・一旦は、リーダー、サブリーダー不在になった。サブリーダーがどうしても、付き添わなければならなかったのか？2つに分かれず、全員が下山という手もあった。

2、ココヘリ

関連の資料を配布し、若干の説明と討議をした。現在、ココヘリ加入者は、全国で1,410名、愛知県連は61名。

12/13、冬山合宿遭対連絡会議を開きます。

下記の通り、標題の会議を開きます。合宿に取り組む山岳会は、コース別に計画書を30部持参して下さい。取り組まない会もぜひ出席し、山岳情報、経験の共有化に努めてください。

【日 時】2019年12月13日(金)19:30～

【場 所】県連事務所

組織部 各会の会員拡大取組み 半田ファミリー山の会

会員は現在69名です。毎年、転勤・高年齢・介護等の事情で数名の退会者があります。一地方都市の会なので、そうそう入会者があるわけではありません。会の活動を維持・発展させていくためには日常的に会員をふやしていく取り組みが必要です。会の会員拡大の取り組みとして、①機関紙『もみのき』の定期発行（会発足以来毎月。2019年11月でNo.454）、ホームページ、外部からの原稿依頼や取材などへの対応による会活動の発信、②一般の人向けの「登山講座」の開催（2019年で23回目）、③春・秋の「清掃登山」を公開登山として実施（会発足以来毎年。今年で38年目）し、一般への参加呼びかけ、④毎年11月に会発足の原動力となった山行を記念する「入道ヶ岳記念登山」を実施（2019年11月3日に87名の参加で第38回の記念登山を実施）し、一般への参加を呼びかける、などが行われています。いずれも、20年30年と続けてきた取り組みで、①は会の知名度・信頼度を上げる取り組み、②～④は、持続的に実施しながら、会をアピールし、参加者に直接入会の呼びかけをする機会となっています。

①機関紙の定期発行、ホームページ、外部からの原稿依頼や取材などへの対応など

会員を増やすためには、会の活動を正確に外に発信し、露出度を上げていくことが必要。会発足以来毎月60～80ページの機関紙を発行し続けてきた。外部で紹介されたり、そこから取材や原稿依頼が来るなどの機会が広がってきた。現在はホームページの更新が課題。

②一般向け「登山講座」の開催

登山をトータルに学ぶ。受講者を「山に連れて行く」講座ではなく、「自分の力で計画を立て、安全に登って確実に下山する登山者になるための入口に立ってもらふ」ことが主題である。そのために自分の登山をどう位置づけ大切にするか、安心して安全な登山のため何が必要かをきちんと理解してもらふこと、最低限必要な登山の知識と「山岳会の登り方」を経験し学習してもらふことが基本に置かれている。講義内容もテキストも会のオリジナルである。

主な内容は、5回の理論講座（①「計画Ⅰ 登山の楽しさと計画の必要性」、②「計画Ⅱ 登山の装備と食料の実際」、③「地図の読み方・使い方」、④「歩く技術とパーティー行動の基本」、

⑤「まとめ—長く登山を続けるために」)と2回の実技(①「まず、山に登ってみよう—これが登山」(2019年は、鈴鹿・鎌ヶ岳)、②「学んだことを検証しながら登ろう」(同、八ヶ岳・編笠山)で構成されている。実技は、沢・尾根・ガラ場など変化に富んだコースを持つ1000m~2000m程度の山域を選び、ロープを使った確保などを含めさまざまな登り方を経験してもらい、理論講座で学習したことを検証しながら登ってもらうようにしている。パーティのリーダー、サブリーダー、サポーターを会員が勤め、受講生をエスコートすることで会員と受講生との距離が縮まり、より山岳会を理解できる機会となる。しかし、山岳会の入会は、長く登山を続けていくための選択肢の一つに過ぎず、それを決めるのは受講者の評価である。受講者や参加者の入会は、講座や登山を通して、私たちの会が自分の登山を託するに足ると受けとめてくれたかどうかにかかっている。

③・④「清掃登山」「入道ヶ岳記念登山」の実施

公開登山の実施要項は、持続的に呼びかけ・実施してきたことで、新聞の告知欄や市報などには相当の確率で掲載をしてもらえるようになってきている。また市内の施設、店舗に要項を置く依頼や、これまでの講座受講者や参加者にDMを送付するなどの呼びかけを行うなど、声をかけ続けてくる中で会の取り組みは定着してきた。そこから会員拡大のきっかけが生まれる。2019年も「登山講座」の受講者から3名、一般から1名の入会者があった。現在、山行や会の運営に積極的に参加してくれている。(文:森本 栄吉)

女性部 女性部だより

10月26日(土)・27日(日)にかけて和歌山県紀三井寺で全国女性交流集会在開催されました。全国より17県連113名の参加者が集まり、愛知県連からは吉川、稲垣(同志会)、井川(ふわく)、小嶋、河村(春日井峠)の5名が参加しました。

女性委員会委員長の久保典子さんの基調報告「女性と登山」現在・過去・未来について考えると題して登山をめぐる状況の変革の中で、全国の仲間が一同に会して、経験を語り合い、伝えあい、多くのことを全国の仲間から学んできた。今、求められているのは、登山文化を次世代に引き継いでいくためには、どのような活動をしたらいいのかが、大きな課題として求められている。

この集会では、女性と登山について活動してきた経験、これからの活動方向性をどのように考えているのか。また、登山における女性特有の課題や悩みなどを語り合い、討議して欲しい。との報告がありました。その後、「登山で輝く女性たち」と題して豊田ふみよさんから、登山がもたらす生理効果で如何に美しく山に登り続けるかの講演がありました。

二日目はA登山における女性の課題、B新しい登山形態は、C事故を起こさないためにと三分科会に分かれて活発な討議が行われました。詳しい内容につきましては報告書にまとめられましたら報告いたします。

【参加者より】

熱心で活発な意見交換が出されて圧倒されたと同時に多くのパワーを貰い、90歳の現役の方を目標に、ついていく登山でなく連れていく登山を出来たらと思います。中高年の登山者の遭難事故等が増えている中で、ゴーゴー体操、合同登山、自然保護活動等を実践されているのに関心しました。若い方は勿論、50代、60代の方もどしどし女性部主催のイベントに参加される事を希望します。(稲垣・同志会)

思ったより多くの方が参加されており、同じような疑問や不安を抱えていることがよくわかりました。高齢者と言われる年代が増え安全に楽しい登山をするために悩む日々ですが、これなら大丈夫と言える方法はありません。老いていく体をどのように維持し、また、なれ合いにならずいつまでも気の張った登山をするか考えさせられました。時間が決められた中でしたが、有意義な時間が過ごせました。和歌山県連の皆さんの準備に費やされた努力に感謝し、次回もこんな時間が持てたら良いと願っています。(井川・ふわく)

ふわく山の会 講演会の紹介

ふわく山の会の例会にて行われる講演会を紹介します。私たちのフィールドである山岳自然についても見識を広め、登山活動をより幅広く楽しむ、そんな機会として是非参加ください。

中川准教授は森林学の研究者で、現在は熱帯雨林の調査もされています。竹内教授は地質学の調査をされている研究者で、NHKの梅海新道の番組で山岳レポーター小林千穂氏に化石などの説明をしていました。

「熱帯雨林の多様な生き物」11月28日 18:30-21:00

講師：名古屋大学准教授、同志会会員、中川弥智子氏

名古屋市新教育館3階第1-第3研修室 久屋大通下車 1A番出口 北460m

「登山と地質 生きている山に会いに行こう」12月26日 18:00～ 同上

講師：名古屋大学准教授、竹内教授

場所は同上、両日とも入場無料、予約は必要なし。

「山の楽しみ」2020年1月12日 14:00～

講師：山岳ライター、日本山岳ガイド協会認定登山ガイド 小林千穂氏

場所はウィル愛知、入場無料、予約は必要なし。

70グラム vs 560グラム - 登山時報を読みましょう！

70グラム vs 560グラム。これいったい何だと思いませんか？

実はというと「登山時報」と某老舗山岳雑誌の重さ比べ。ざっと8倍の差！

厚みでも「登山時報」の6～7冊分が1冊分。しかも本は重さで買うものではないですね。何がこの違いになるのでしょうか。山岳雑誌には広告がたくさん載っています。この広告がないと、1,000円前後の値段では出版できない。そして部数が多くないと、スポンサーは広告費をたくさん出してくれません。ですから、登山愛好者が手に取ってくれるような見栄えのする表紙を作り、幅広い人に合うような特集を組んで売れるようにします。季節感が大事なので、秋の紅葉特集なら、一年以上前から取材を始め、翌年の夏過ぎには編集を終えています。部数を伸ばす、もしくは維持するにはあまり冒険ができず、毎年同じような特集企画が並ぶのは商業誌として仕方のないことかもしれません。

一方、「登山時報」というと、ほとんど広告がない。数えたら4本だけ。定価の310円は高いと思われるかもしれませんが、私はよくやれているな～と感じています。書店に並ばず、直接、購読予約者に頒布していて無駄がないことで何とかやっているのではと思います。特集はかなり自由にやっている感じです。最近号から拾ってみても「お奨めしたい九州の山々・全7編」「あこがれの穂高」「海外トレッキング」等々。そして、これらの特集に登場するのは大半が労山の会員です。自分たちでも行けそうだなと身近に感じられます。各地の山岳会がこんな活動をしていると刺激がもらえる。そこに「登山時報」の最大の魅力があると思うのです。まだ「登山時報」を手にしたことのないあなた、ぜひ見て読んで感想をお寄せください。

【編集後記】9月末の代表者会議の議事を詳細に掲載しております。財政の問題、事務所の問題など、私たちが直面している様々な問題について、色々な視点からの意見が交わされています。激しく変化していく今の社会において、私たちが行う決定は、日本の登山文化の将来にも少なからずかわってくると思います。そのような考えにたってご一読いただくと幸いです。（事務局 井土）

Schedule 2019

12月			1月				2月	
1	日		1	水	正月	1	土	
2	月	氷雪技術講習打合せ	2	木		2	日	
3	火		3	金		3	月	
4	水		4	土		4	火	
5	木	女性のつどい⑨	5	日		5	水	
6	金		6	月		6	木	理事会⑳
7	土		7	火		7	金	遭対担当者会議⑤
8	日		8	水		8	土	
9	月		9	木	理事会⑱	9	日	
10	火		10	金		10	月	
11	水		11	土		11	火	
12	木	理事会⑱	12	日		12	水	
13	金	冬山合宿遭対連絡会議	13	月		13	木	女性のつどい⑪
14	土	氷雪技術講習実技①	14	火		14	金	
15	日		15	水	教育担当者会議⑩	15	土	第34回総会(全国連盟)
16	月		16	木	組織担当者会議⑨ 自然保護部会⑨ 女性のつどい⑩	16	日	第34回総会(全国連盟)
17	火	組織担当者会議⑧	17	金	冬山合宿遭対報告会議	17	月	
18	水		18	土	氷雪技術講習実技② 雪崩講習会実技	18	火	
19	木	教育担当者会議⑨ 自然保護部会⑧	19	日	雪崩講習会実技	19	水	
20	金		20	月	積雪期救助訓練机上	20	木	組織担当者会議⑩
21	土	理事会⑱	21	火		21	金	
22	日		22	水		22	土	
23	月		23	木	理事会⑲	23	日	
24	火		24	金		24	月	
25	水		25	土		25	火	
26	木		26	日	積雪期救助訓練実技	26	水	
27	金		27	月		27	木	理事会(21)
28	土		28	火		28	金	
29	日		29	水		29	土	
30	月		30	木		1	日	第52期総会
31	火		31	金		2	月	

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com